

令和6年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和6年11月24日（日）14時～15時50分
- 開催場所 近隣センターふさの風
- 参加者 市民18名
- 出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等11名

市民：前回、新木の近隣センターのふれあい懇談会でもご質問させていただきましたが市民図書館の湖北台分館についての質問です。新しく図書館を建ててほしいと要望があったと思うのですが、今の湖北小学校の体育館の延焼の件などを踏まえて、新しい建物を建てるのは、なかなか難しいと理解しています。例えばですけれども、近隣センターの中に畳敷きのスペースですとか絨毯敷きのスペースがありまして、その利用は実際そんなに多くないというのを管理者に直接聞きました。そこに図書館の司書の方がなさっている、親子で楽しむお話し会を通して、子供たちが集まるような日をつくったり、あと畳敷きのところは、できれば礼儀正しく読むのではなくてちょっとリラックスして子供たちがくつろげるようなスペースを作っていただければと思います。今、近隣センターも結構シニアの方の利用が多いように見受けられます。いろんな世代の方が来れば活性化するのではと思います。あとはそういう近隣センターにプラスして、商店街ですとか、空き店舗がたくさんありますので、その中でも老朽化が進みすぎている建物を使って、本のスペースなどを確保していただきたいと思います。やはり、図書館がない地域というのは、かなり子育て世代にとっては決め手に欠けると思いますし、私も流山から引っ越してきて、我孫子は流山以上に子育てしやすい街であると思っています。学の街なのに図書館がないというのは、本当に悲しいことだと日々思っています。もちろん、市に全部やってほしいというのではなくて市民ももちろん協力する。私達保護者も繋がっていますけれども、それ以外の地域の方々。湖北は、自治会連合会とか自治会の力もあるので、そういう方たちの中から有志を募っていきたいと思っていますが、やはり市民だけではどうしようもない部分があると思います。そこをぜひ市の方でもサポートしていただきたいと思っています。

市長：はい。ありがとうございます。現実問題として図書館をどこに建てるかということとは、お話ししたかったのですが、とりあえず湖北の消防署を建てて、そのときに地区社会福祉協議会と行政サービスセンターをどうするかということになります。これらの建物は、我孫子が市になる前に当時の公団から寄付を受けて使っていますので、60年近く経っています。消防署については、消防職員の定数を22名増やして、救急隊と救助隊を増隊し、我孫子の東西に一つずつ救助隊をおきます。今、四つの消防署で5台の救急隊を持っているのですけれども、年間の救急搬送数が7,500件を超える前にもう1隊増やそうという予定で計画をしていました。ところが昨年もコロナや熱中症によって、昨年の段階で7,500件を超えているという状況になって、今5台の救急隊とプラス2台の予備車という形で対応しています。当然、救命士はその前に増やしてありますので2年後の新たな消防署が完成したときには、湖北の消防署にもう一台増える常備隊として、救急隊が2台プラス予備車、それと救助隊を1隊という形で準備を進めております。我孫子には、あまり高層マンションはないのですけれども、救助隊の必要性としては、交通事故での救助作業は救助隊の方が圧倒的に活躍することになります。湖北消防の移転計画のときに、図書館も老朽化が見えていましたから、どうするかを投げかけたのですが、その時には、西や東に移転させるのではなく、今の場所が良いということで、まとまりませんでした。そして、次の2期目として、図書館について検討を始めましょうということでした。了解をいただいているところでしたが、残念ながら老朽化が止まらず、今の状態では危ないということになりました。この前の湖北台のふれあい懇談会でも同じお声をいただきました。私としても教育委員会と話をし、場所は消防署の跡地だけという提案でしたけれども、その後、西小学校の敷地という提案をさせてもらっています。多くの方が、図書館は、今の場所あたりを望んでおられるということ踏まえた中で、7、8年後は、西小学校の子供がどんどん減っていきます。西小学校の6学年のうちの半分が1クラス、同じような状況が東小学校にもあるという状況になると、今現在この布佐小学校、布佐中学校区を9学年の小中一貫校の校舎に建て替えをすると取りまとめたところです。この地域は布佐小学校も布佐南小学校6学年全て1クラスです。大体1学年20人ぐらい、一番小さな学年だと20人以内という状況になっていて、部活がほとんど出来ません。小中一体型の学校にすることによって、小学校の5、6年生と一緒に部活ができると、少しでも子供達の選択の幅が広がるのではと思っています。

そこについては布佐の地域の方々にもご理解を得ながら、これから工事を始める布佐小学校への入口の交差点改良、歩道拡幅など車道も含めて広げないと、車の行き来が出来ません。一体型にするとなると、もう少し安全確保をする必要があると思っています。いずれ湖北中学校区や湖北台中学校区も同じような状況になるだろうと予想していますので、それを踏まえて、西小学校の敷地はどうなるのかという話を、少し湖北台の方々にも投げかけているのですが、返事がまだ来ません。いわゆる場所が決まらないと何も先に進まないものですから、それも踏まえながら、ぜひ湖北台の中でも議論をしていただけるとありがたいと思います。東小学校の敷地という提案をされた方がいましたけれども、東小の場所でしたら今の消防署とそんなにかわりませんので、その場所に同意してくれるのかということになります。今、西小の敷地というのは一つの検討の余地があるとして、体育館は災害時には避難所になりますから、体育館は避難所として確保する必要があるだろうと思っています。西小学校の中に図書館をという話も出ましたが、西小学校はちょうど団地ができた頃に建てられましたから、かなり老朽化が激しい校舎に本を入れるのは、厳しいという判断をしました。そうすると今の校舎を使うのではなく、西小学校の敷地でなるべく体育館の近くが良いと考えています。避難所となる体育館の横に常駐する職員がいる図書館があれば、災害時に迅速に対応できるからです。または、今の消防署の跡地という部分を、これからゆっくりと議論をしていきたいと思っていますので、その間の提案として拝聴させていただきます。いろんな所で読み聞かせをされていると聞いておりますし、子どもたちの将来を支えていくうえでも、これからもご協力をいただきたいと思います。建物は、今の工法ですと基本的に60年は使用できます。そういう建物の場所は簡単に決められません。本格的になるまでの提案としてお伺いしながら、教育委員会とも相談をさせていただいて、近隣センターに図書室という話になれば、当然管理する部長やまちづくり協議会。やはり、まちづくり協議会のご理解が一番必要だと思っていますので、少しお時間をいただきたいと思います。場所についてはいろんな方々と話をしながら、そして自治会の方でも少し話をさせていただくとありがたいです。ご意見をまちづくり協議会の所管や、あるいは、秘書課の方に伝えてもらうなどしていただければありがたいです。よろしく願いいたします。

市 民：市長、ご説明ありがとうございます。前回5月ぐらいのときに市長との意見交換

会でバスの運行が布佐の平和台線、あとは天王台から布佐までの部分がちょっと変わるというお話をいただいている、9月から平和台の方が休日ダイヤになって、布佐から天王台までは、市で負担するようになったということですが、天王台から布佐線はまだ1回しか乗っていません。意見としては、天王台のバス停の場所がすごくわかりづらくて、びっくりしました。もともと天王台駅の階段を下りてすぐだったのが変わっていて、その案内も見づらくてわかりづらいなという点がありました。あと、私が乗った時間、お昼ぐらいでしたけれど、やはりお母さん方など買い物かごで乗ったりする人もいるというのが、わかりました。私からは、2点ほどですが、まず一点目が、9月から休日ダイヤになった路線は通勤通学の時間に使えなくなりました。朝は7時台から、夕方は18時半までという時間帯があって、まず通勤している方々は多分ほぼ使っていないだろうという状況です。その中で、どういうふうに意見を収集するのかというところが疑問です。朝は正直仕方ないと思うのですが、夜は冬になると、このあたりはすごく暗いです。18時半で部活を行って高校生とかも帰るのに、バスがないと怖いのではないかと思うぐらい暗いです。この資料を見たときに、移住定住に力を入れるということに予算配分を検討すると書いてあるのに、夕方18時半がバスの最終という所に誰が住み続けたいと思うのかと正直私は考えております。まだまだ若い人もいらっしゃいます。先ほど図書館の話もあって図書館を利用したいという人がいるのです。子育てに力を入れるのだったら、もっと交通の便をちゃんとすべきではないかと思えます。確かに赤字であるのは重々承知で言っております。その中で、我孫子市もホームページの方で確かアンケートの収集があったと思うのですが、その他アンケートの収集はされたのでしょうか？例えば、近隣センターとかに何かボックスを置くとか、そういうバスに関しての意見を募集するようなことはされているのか。平和台とかでは、阪東バスに対しての意見のアンケートは、先々週ぐらいに回覧板で初めて回ってきました。私はもう何年も前からもう休日ダイヤになると言われた時におかしいと思っていたのに、やっとここで皆さんが危機感を覚えるようになったということは、それだけ他の人達がわかっていないのです。休日ダイヤになって、まずいと思っているということは、それだけ他の人達が実情をわかっていないのです。この市長との意見交換会があることすら知らない若い人がいたのです。そこはもうちょっと発信すべきではないでしょうか。近隣センターや図書館も布佐はありますので、そういうところにも発信するべきですし、小学校に

通っている子たちの親御さんにも、学校を通してこういう会があって、意見をもっと言える。みんなでもっと良い市にしていこうよというふうにするべきではないでしょうか。バスの運行とアンケート方法について、お考えをお聞かせ願いたいと思います。よろしくをお願いします。

市長：はい、ありがとうございます。今一番厳しいと思っているのは、阪東バスさんは、いわゆる利益が上がらないから撤退します。撤退にあたっては、市の方で補助をしながら継続します。継続するにも、ご存じのように運転手が足りないという状況の中で、運転手の確保ができないと支障は出てきます。例えば、補助を出して大型免許あるいは二種免許を取る運転士さんの確保をしたと思ったら、資格が取れたらもっと給料が高い東京に行ってしまうなど、ただ単に募集をすればいいというわけではないのです。これは、何度もそれを経験している阪東バスさんからのアドバイスであり、今、課題になっていると理解をしてください。その中で朝7時から夜7時の運行という意見も出るだろうと思っていました。気持ち的には十分わかります。ご指摘のように、もう少し遅らせる必要があると思っていますけれど、ただ意見がないと、そういう必要がないという判断をせざるを得ないので、今日こういうご意見をいただけてよかったです。

ただ、現実的には今、働き方改革を含めて、これを例えば1時間、2時間延長するのは1時間、2時間分の人件費ではなくて、倍の負担額を用意しなければならないと言われていきます。例えば、6時から9時まで運行をして12時間を超えた3時間は、3時間分の人件費ではないという状況の中で、これをどう捻出するかが今の市の課題です。それを踏まえながら、平和台線あるいは、布佐線をどう維持していくか。我孫子市には、あびバスがあります。このあびバスのルートは、ほとんど民間バス路線がないエリアです。当然バスの路線がないというのは、民間バスとしてはそこを走っても利益が出ないから走らないのです。だからこそ差額の赤字を市が補填する形で、運行しているという状況なのです。当然、これらの路線はコロナの時期から赤字幅はかなり大きくなりました。大体、新木ルートが一番赤字で、これまで1,000万円ほどだったのが、1,500万円ほどの赤字となり、一番赤字が少ないところでも、前は500万円ぐらいの赤字だったのに今は1,000万円ほどまで膨れ上がっています。それぞれの交通不便地域を補完するためには、それだけ税金の投入が必要な状況だという中で、平和台線とこの布佐線、

これをどう維持していくか、ここの財源をどう捻出するかという話を進めていこうとしています。現在の阪東バスの一番短い距離で 170 円になっています。ただ、あびバスは最後まで乗っても 150 円です。それに加え、例えば Suica で乗れるようにしようとする、1 億円の保証金をバス会社に収めないと、Suica の機械を導入してくれないのです。そういったことなどを踏まえながら、いかにこのペースで路線を維持するか方策を今検討しているところです。確かに夜はバスがないと厳しいです。予想通りのご意見を出してくれましたので、結論はまだすぐに出ませんが、運行している阪東バスさんと調整が必要です。路線の変更については、当然国交省の許可が必要になりますので、そこを踏まえ、市はバスを運行する資格がありませんから、あくまでも運行できる会社に運行してもらおう形になります。そこをどうやって進めていくかについては、少しお時間をいただきながら、バスの運行時間をもう少し延長することを検討するしかないと思いました。ご意見ありがとうございました。

市民：先ほどの続きのバスの件ですけれど、日曜の時刻表で運行されているとのことですが、これはあびバスを使うか、市の方の裁量になるかもしれませんが、今のバスの時刻で新木方面につくのは、7 時ぐらい、あとは 8 時ぐらいになりますので、そうになると、我々の子供も通勤できなくなるのです。上野あたりで 9 時前ぐらいに着くので、10 時出勤時間の会社でないと通勤できません。夜も 7 時ごろの新木駅のターミナルを見ると迎えの車でいっぱいです。バスがないからその他の人は歩いているのです。だから今の運行時間というのは、我々、年金受給者が乗る時間帯になっているのです。通勤者の方を考えると平日に一時間に一本でいいですけど、やはり朝の 6 時が必要です。これからの若い人は布佐に住まわなくなります。そういうことを考えていただいて、市長はあれだけ大きく新聞にでてアピールされているのですから、ルートではなく時間帯を考えていただきたい。お願いします。

市長：はい、ありがとうございます。今日は午前中、新木地区での懇談会がありまして、新木地区でも同じようなご意見がありました。せっかく湖北駅から成田線に乗ろうとしたら、発車 1 分後に着いたという厳しいご指摘を受けました。それも含めてダイヤの見直しもこれから検討するということですので、平日休日という形ではなくて、

もうこの時間帯に走るのだというふうに決まってしまうと、それで良いのではないかと私は思っています。そして、その時間帯を見直しさせていただいて、成田線に乗りやすいように検討する必要があるだろうと思っています。特に高齢者の皆さんに言われたのは、電車に乗るのに余裕を持った時間で着くようにという声を頂きましたので、それも踏まえながら、時間帯の延長の部分について、大きな金額がかかるというのがありますが、しっかりと見直しをさせていただければと思っています。先ほどの繰り返しになりますが、いつからというのは、阪東バスさんと調整をさせていただきたいと思います。働き方改革により、救急病院等も非常に厳しくなっています。あちらこちらで、この働き方改革は市民の皆さんにしわ寄せが来ているというのを、ある程度承知していただきたいと思っています。出来ましたら、具体的にこの時間帯が一番不便だということを教えていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

市 民：子どもの健康に関する事業があまりないという印象を受けました。アレルギーの子とか、発達障害の子とか多くなっていると思うのですが、その原因が農薬とか除草剤が原因と言われているようで、毎日食べる給食が無農薬に変われば、子供たちの健康にもいい影響が出るのかなと思っています。無農薬により子供達の免疫力も向上するのではないかと考えています。健康になれば、医療費も減るでしょうし、オーガニック給食を実施している市もあり、それによって移住者が増えたとも聞いております。我孫子市のブランド向上と子供の健康に関して、市長のお考えをお聞きしたいと思っています。

市 長：農薬も濃度次第であり、無農薬で作る野菜は良い状態で作ろうと思うと、かなりの手間がかかります。ご存知のように我孫子の農家の方は高齢者が増えてきて、無農薬での生産をお願いできる人は、もういなくなっています。若い人たちが脱サラして農業をやろうとしている方が少しずつ増えてきています。ただ、その人たちが目標としてやろうとしているけれども、現実的には、その方達が完全無農薬で作った野菜の提供量で、市内の全学校の給食量は確保できません。実際に我孫子で進めているのは、いわゆる低農薬です。農薬をなるべく減らして野菜の収穫量を確保し、そして、農家が農業を継続していけるように進んでいます。我孫子の面積の約3分の1は農地です。それを守っていかなければ、我孫子の住環境というのは守れなくなるというふうに思っていま

すが、我孫子の農家が農業継続できるようにするためのものとして、無農薬給食を提供し続けたら、本当にアレルギーがなくなるかという私はそうは思っていません。それは他にも害を及ぼすものが、たくさんあるからです。例えば車の排ガスです。食品の農薬だけの問題ではなくて、それ以外にもいろんな生活をしている中、人間の体に害を及ぼすものが多い中で、食するものだけにそういう害のないものを選ぶというのは、今なかなか厳しいというふうに思っています。ましてや、今回、米の値段が上がりましたが、皆さん、高いと思いますか。普通だと思いますか。今の金額ぐらいが普通だと思ってくれないと農家はお米を作れません。当然、農家はその収入で子供を育てて、おじいちゃんおばあちゃんの面倒を見ているのですから、30キロで1万円しないと、「もう農業をやめなさい」と自分の子供たちに言う現状です。今のように60キロで2万円を超えるぐらいでないと、農家を継がせることは出来ません。ですから、現実、社会的に動くには無農薬を進めるだけではいけないだろうと思っています。我孫子のほとりは、昔から農業地帯です。当時軍医であった田口静先生は、戦前のような農業を続けてきたから、農家は平均寿命50歳を超えない。近代農業に変えていかないと農家は長生きできないと言って、機械化農業、近代化農業を進めるようにと指導者に話したそうです。そういう歴史を踏まえながら、様々な形で農薬を使ってきました。その中でも人間に害がある農薬と害が低い農薬がありますが、残念ながら昔に比べると確かにアレルギーの子供たちは増えてきました。それは本当に農薬が原因なのかどうかというのは、私は、結論は出ていないというふうに思っています。確かに原因の一つではあるかもしれないですけど。そこは見極める必要があるだろうと思っています。あとは、無農薬でお米を作ってくれる農家が、どれだけ出てくるかということが一番大事だと思っています。我孫子の給食では、週5日中、週4日は我孫子産のお米を使っています。残り1日はパンや麺類です。子供たちの好みや栄養のバランスを考えながら作っています。こうしたことで、農家の下支えもできますし、米に合わせながら、旬の野菜を知ってもらうために全ての学校に栄養士を配属して自公方式で給食をしています。そして、その地域でどの農家で作ったかわかるような形で旬の野菜の美味しさを給食を通して知ってもらって、子供たちがそれを美味しいと言え、お母さん方もスーパーだけでなく、我孫子の直売所でも野菜を買っていただき、そこで、どの程度の農薬を使っているかも把握できますので、ぜひ、我孫子の直売所も選択していただきたいと思っています。この状況で

物価がおそらくお米だけじゃなくて他も上がり、給食費の値上げも含めて検討せざるを得ないというふうに思っておりますので、ご指摘をいただけるのであれば、その給食費の値上げも含めて、検討していただければありがたいと思います。また、まだまだ現実的には経済的に厳しい家庭があるなかで、これからの学校給食というのは、子供たちからすると、大切な栄養源になっているということを踏まえながら、対応していきたいと思っています。確かに無農薬を中心とした農家もありますので、無農薬を否定するわけではありません。野菜やお米など少し高くなっても、無農薬だからということで応援していただけると、これから無農薬をやっていこうという農家の後押しにもなりますので、ぜひお願いしたいと思います。市としては、なかなかそこに踏み込むことは難しいということをご理解ください。よろしくお願いいたします。

市 民：バスの件ですが、日本でも自動運転化が結構話題になっていますが、今回検討されている中に自動バスの内容が含まれているか、含まれていないのであれば、検討していただきたいなというところですね。今、市長がおっしゃっていた人件費の面ですけれども、朝を自動化、または夕方を自動化するか、もしくは終日自動化することを検討いただいてもいいのかなと個人的には思っています。いろんな地方で実証実験を行っていて、国からも補助を出しているところもありますので、市長に地方の視察に行ってもらって、実際に日常的に利用可能かどうか確認していただければと思います。あとは今、補填が1,000万円という話がありましたけれども、そちらの方は持続の方に回していただければ、将来的にはメリットが大きいのかなと考えておりますので、自動運転化が今検討の中に入っているのか、お聞かせいただければと思います。

市 長：実は昨日、中央学院大学の学生さんに我孫子の街を更に良くするための、大学生による施策提案を受けました。その中に同じ提案が一つありました。実際にもうこの近辺でもいくつかの市で実証運行という形で動き出している場所もありますけれども、私が気になるのは、低速走行です。普通の運転をしている人たちが低速のスピードに了解してくれるのか、後ろからくる車がイライラして抜いてしまわないか。無理して狭いところで抜いてしまうと事故に繋がりますから、それは大丈夫なのか。その低速で走ったときに、本当にそのスピードで我孫子の人達は理解した上で交通ルールを守って

くれるのかどうか。まず、これを私はチェックしたいと思っています。テレビの内容だけでは、実際走らせた場合の問題点などは、わかりません。やはり、実際に見てみないといけないと思います。例えば、小中一貫校については、過疎地で行っています。しかし、人口が減っていない所でも行われております。例えば筑波や市川の塩浜でも行って、2,000人のマンモス校にもなっています。それだけ親御さんたちは、一体型の小中一貫校がいいと判断しているということです。実際に現場に行ってみて、教わる人が多いと思いますので、聞き取りが必要だと考えています。返答にはもう少しお時間ください。

市 民:布佐だけではないと思うのですが、外国人の方が非常に増えていると思うのです。それに対する市の考えと今後はどう対応していくのか。私も社会人としては、コミュニティを作って、盛り上げていきたいと思っていますけれども、全体的にはあんまり外国人が多くなることを望んでいない方が多いような気がするのです。街によっては、外国人と一緒に盛り上がっている場所もあると聞いております。日本の少子高齢化などを考えると市としてどういうお考えがあるのか、お聞きしたいと思います。

市 長:今日、市民プラザの方でA I R Aの国際交流まつりが開催されています。我孫子市内に現在 3,500名の外国人が住んでいます。この1年で700人以上増えました。そろそろ、外国人が我孫子の人口の3%に達するという状況になっています。一番多いのが中国人で、次はネパール人、そしてベトナム、韓国、フィリピンと続いています。その人たちは、NECのいわゆる留学生、研修生、研究者として来られる方もいれば、市内には大学が二つありますから、この大学にくる留学生もいらっしゃいます。あと、我孫子市内には日本語学校が我孫子、天王台、湖北にあります。やはり日本語学校があると、どうしても外国からの留学生が日本語学校に通います。特に布佐は、利根町にウェルネス大学があります。その人たちは利根町に住んでくれればよいのですが、実際、利根町に比べると布佐の方が住むところもあるし、交通の便はいいし、バイトをすることもありますので、布佐駅から栄橋を大勢で歩いていると聞いております。ただ、市内だけでなく、介護施設で日本人が足りなくなってくると、どうしても外国人労働者に頼らざるを得なくなって、日本語学校で日本語を1年から1年半勉強して、日本語を

ある程度理解した上で、例えば介護の資格を取らせて、そのまま自分の系列の介護施設で働いてもらうということを行っているところもあります。日本人の労働力が足りなくなってくると外国人労働力に頼らざるを得ないということです。我孫子市内では、天王台に100人規模の特別養護老人ホームをつくる予定です。当然100人が入るとなると、少なくとも倍の人数の働き手がいなければ24時間体制で見られません。そうすると、それなりに介護労働者が必要であり、老人ホームの施設長に聞くと、日本人は2年も働かないが、外国人は5年ぐらい働いてくれて、母国に帰りまたビザを取得して戻ってくるということです。外国人として差別することはないし、日本で働く人はまじめだと聞いております。特にベトナムの方は非常に真面目で、非常に高い評価だと聞いています。外国人が犯罪を行うと言われますが、日本人でも犯罪をしていますから、どこの国の人だからイコール犯罪者ではないことを踏まえて、外国人だからといって、排除していく必要はないだろうというふうに思っています。私も学校訪問して、給食を子供たちと一緒に食べているのですけれども、各学校に外国人の子供あるいはハーフなのかなと思われる子は結構います。その中で今日の国際交流まつりもそうですが、日本人として外国の人たちの言葉を理解するだけではなくて、文化を理解しないといけませんし、逆に日本人の文化、生活習慣を知ってもらわないと、日本にいる時に仲良くなれないという話をさせてもらって、今、日本語学校の先生を通して日本で暮らす時の生活習慣、マナーを教えていただくように伝えております。ただ、その中で問題となっているのが、一番は、ゴミ出しです。ゴミの分別ができないと日本で生活するときどうしても周りと合わなくなります。また、例えば真夜中まで公園で騒いでいることは、周囲に迷惑をかけることであるなど、いろんなルールやマナーを伝えていくしかないだろうと思っています。こういったことを踏まえて、日本での生活がしやすくなるということを併せて教えていただくよう、日本語学校の先生たちにもアドバイスをしているところです。市といたしましても、バックアップできる体制をとるしかないだろうと考えていますが、市職員だけで、こういったことを全部クリアすることはできませんから、国際交流協会AIRAに所属している方に通訳あるいは翻訳をお願いして、協力をしてもらっているという状況がかなり増えてきています。いろんな国の外国人が我孫子に来ていますので、積極的に受け入れるとか、積極的にお断りするのかなど方針は決めておりません。まずは、皆様の方でも私に情報提供していただければ、日本語学校の方と相談をして

いきたいと思います。

市 民：先ほど話しました図書館の件ですが、今、湖北台図書館分館が日曜日休館になっていまして、日月休みとなっておりますが、その理由は、利用率低下などでしょうか。それをお聞きしたいのと、このあいだ、新産業まつりが久しぶりに中央公園で開催されて、そのときに移動図書館が中央公園に1日おりました。移動図書館は、確かにたくさんいい本を運んでいるのですが、移動図書館内で本を選んだり、読むのも難しいので、例えばですけれど日曜日休館になっている分、中央公園にその車を停めていただいて、30分とか1時間とか2時間という時間じゃなくて、天気がよければ1日公園で読めるような機会を作っていただけると、すごく市民にとっても良いことかなと思います。実際、新産業まつりでそれを見た湖北の自治会の方が直接図書館の方に交渉して、今度の鯉のぼり祭りで同じようなことやってもらえないかという交渉をしました。しかし、お祭りとかイベントとなると、半年に1回または2回なので、もしその図書館内で日曜日休館というのが続くのであれば、大変だと思うのですが、もう少し頻度上げてそういう公園に来ていただいて、それを地域で周知して利用をしていくというのはいかがでしょうか。

市 民：以前も子ども議会で、自分の学校の図書室の本の種類が少ないという意見があり、その分を移動図書館でカバーするようなこともありました。そういった中で、子どもたちの要望では、図鑑がみたいという声が多くありました。子供たちの希望はどういった種類の本なのか。学年によって、違います。高学年になれば、文章が多い本を希望してきます。一応、基本的には図書館の職員は月曜日が休みです。ですから、例えば日中でも違う地区に応援にまわっているかもしれませんが、そこは教育委員会に話をしてみます。中央公園になるかは別にしても、先ほど言ったように新しい消防署の道路の反対側に憩いのスペースが設置されます。そこに移動図書館が来ますので、その場で読めるようにベンチを置くつもりでいますから、そこが定期的に移動図書館が来ている場所だと理解していただきたいと思います。あとは先ほど言った中央公園になるかどうかは別にしても、湖北台図書館が閉館している間に、どこに行けば定期的に読める

のかということを含めながら、教育委員会と協議をさせてもらおうと思います。よろしくお願いいたします。